

(6) 御船神事

- 駿河湾の大海原
- 波が押し寄せる
- 萩間川の河口の風景
- 相良港の様子

○大江八幡宮(夕方)  
氏子たちが入ってゆく

○並ぶ三艘の御船(柱なし)

- 官司の中村 肇さん 祝詞
- 畏まる保存会総代の  
今村尚史さん

○「国指定無形文化財  
御船神事」の幟

- 帆上げの儀、開始
- 帆が上がってゆく
- 帆が上がって完成した  
御船三艘 GS

保存会総代 今村尚史さん 官司 中村 肇さん 大江八幡宮おふねの御船神事

はぎまがわ 萩間川河口  
相良港 駿河湾

静岡県は、遙かな昔から海上交通の拠点として発展して来ました。江戸時代になると、西風を避ける港として、萩間川はぎまがわの河口に開けた相良湊さがらみなとが注目され、お茶をはじめ、米や砂糖、海産物などを積みだす千石船で大いに栄えたのです。

牧之原市にはその当時の繁栄を伝える勇壮な行事が残されています。精巧な千石船を担いで地区内を練り歩く「御船神事おふね」です。

(祝詞)

大江八幡宮の「御船神事」は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

師匠の唄を受けて船若ふなわかが綱を引き、帆を上げます。

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 朝空に神社の幟はためく</li> <li>○ 御船が石段を降りてくる</li> <li>○ 神社の外へ出てゆく御船</li> <li>○ 神社前で最初の練り</li> <li>○ 御船を前後に大きく揺らして練る様子</li> <li>○ 神社前から     駆け出して地区内へ</li> <li>○ 駆ける船若たち</li> <li>○ 練り唄を歌う</li> <li>○ 茶畑の横で練る（ヒキ）</li> <li>○ 道角で練る</li> <li>○ 見ている人たちがいる</li> <li>○ 川沿いの道で練る</li> <li>○ 駆出してゆく</li> <li>○ 参道で練る、何度も</li> <li>○ 石段を駆け上がって     宮入する</li> </ul>	
<p>揃いの浴衣の船若<small>ふなわか</small>たちに担がれ、御船が神社を後にします。</p> <p>大きく揺らす御船の動きは、荒れる大海原を行く千石船を表現しているといえます。</p> <p>練り唄は、將軍家御用船<small>せんふなうた</small>の船歌を、老中・田沼意次<small>たぬまおきつぐ</small>が歌わせたものだとの言い伝えが残されています。</p> <p>現在祭で使われている御船は、江戸時代の廻船問屋<small>かいせん</small>が、海上交通の安全を祈願して奉納しました。</p> <p>地区内をまわっていた御船が神社に戻り、鳥居の前で最後の練りのあと・・・、神社の石段を一気に駆け上がると、宮入です。</p>	